

令和８年度 第１回スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和８年７月１４日（火） ９：５５～１１：５０
場 所	第三委員会室
参 集 者	委 員／中條 庸右、齋藤 隆、堀 俊一、齋藤 勉、三浦 修一、 庄司 真由、大滝 美樹、穂積 祥、佐藤 寿実子、 伊藤 真実 欠 席／なし 酒田市／赤坂教育長、齋藤教育次長 スポーツ振興課：樋渡課長、中山課長補佐、高橋主査兼係長、 鈴木主査兼係長、山崎調整主任
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会次第 ・審議会委員名簿 ・資料１ 令和８年度スポーツ振興課予算の概要 ・資料２ 令和７年度の事業評価及び令和８年度の事業概要について ・資料３ 令和７年度スポーツ振興課所管施設利用状況について ・資料４ 令和７年度「酒田市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査」の概要

【委嘱状の交付】

- ・新任の委員に、教育長より委嘱状を交付。

【新任委員自己紹介】

１．開 会（事務局）

【会議の成立について報告】

- ・「酒田市スポーツ推進審議会に関する条例」第６条第１項により、審議会は、委員総数の過半数の出席が要件となっている。本日の審議会については、委員総数１０名のうち、出席者１０名となっており、審議会が成立していることを報告する。

２．あいさつ（教育長）

- ・昨年度に一部改訂を行った「酒田市スポーツ推進計画」が、令和８年度から新たにスタートした。改訂後は「スポーツによる健康な市民生活と魅力あるまちづくりを推進するー「する」「みる」「ささえる」「しる」スポーツの推進ー」を基本理念として、ウェルビーイングなまちの実現を目指すこととしている。
- ・今年度は、本市において、「みる」スポーツの機会として様々なスポーツイベントが予定されている。７月６日から１２日までの日程で、庄内空港緩衝緑地多目的広場において、モンテディオ山形のサマーキャンプが行われた。８月７日には、１９年ぶりの開催となる大相撲酒田場所が、ＩＮＰＥＸ酒田アリーナにて開催される。また、８月２９日には、同じくＩＮＰＥＸ酒田アリーナで、２年連続の開催となる山形ワイヴァンズのプレシーズンマッチが開催される。９月６日には、SHONAI ENERGY スタジアム（光ヶ丘野球場）において、２０年ぶりの開催となる宝くじスポーツフェア「ドリーム・ベースボ

ール」が開催される。

- ・ドリーム・ベースボールでは、「しる」スポーツの機会として「少年少女ふれあい野球教室」が、「する」「みる」スポーツの機会として酒田市選抜チーム対プロ野球OBチームの「ドリーム・ゲーム」が、それぞれ開催される。プロスポーツを身近に触れる機会が増えることは、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、本市から未来のプロスポーツ選手が輩出されることに期待が高まることに繋がると考える。
- ・本日の審議会では、スポーツ振興課の令和8年度の予算概要のほか、令和7年度の事業評価及び令和8年度の事業概要について、ご審議をお願いしたい。委員の皆様からは、それぞれの立場で忌憚のないご意見を賜るよう、よろしくお願い申し上げます。

【職員自己紹介】

3. 協議（進行：会長）

【審議会の持ち方について】（事務局説明）

- ・この審議会は、年間で3回の開催を予定している。
- ・第1回目の審議会（今回）は、①例年、第3回目の審議会で翌年度の予算概要（案）の説明をしていたが、議決前であったこともあり、今年度より第1回目の審議会で説明をさせていただく。②平成31年3月に策定（令和8年2月に一部改訂）した酒田市スポーツ推進計画に基づいて、4つの基本目標に沿った形で昨年度の取り組みと、今年度の取り組みを資料としている。今回は、各項目についてご意見をいただきたい。③その他として、令和7年度の体育施設利用状況及び、スポーツの推進に関する市民アンケートの結果について説明をする。
- ・第2回目の審議会は、10月頃の開催を予定しており、今年度事業の進捗状況と、来年度の予算要求にかかわる内容について委員の皆さまに報告し、意見を伺う場としたい。
- ・第3回目の審議会は、2月頃の開催を予定しており、今年度の取り組みと、来年度の取り組み予定について報告する。

（1）令和8年度スポーツ振興課予算の概要について 【資料1】

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

○委員

意見であるが、これをグラフに表していただくと、総予算の中でこの事業が何パーセントであるとか、それから、新規事業の区別が大変なのかもしれないが、前年度との比較を棒グラフにすると、この事業は伸びているとか、今の説明が一目瞭然で出てくると思う。円グラフで表して、こんな構成で予算が組み立てられているんだという、そんな工夫があっているのかなと思ったのだが、いかがか。

⇒事務局

検討させていただく。

（2）令和7年度の事業評価について及び令和8年度の事業概要について

<基本目標1 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進【資料2-1】>

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

○委員

ラン&ウォークに非常に力を入れているというのが出ているが、135名参加という数字と、それから次ページの最後のほうに607人という数字がある。これがよく分からないのだが、どういうことなのか。

⇒事務局

ACTIONの607人(R8.7.7時点)というのは、ラン&ウォークのアプリに登録している人数である。5月のさつきラン&ウォークは135名ということで、これは昨年の数字であるが、アプリを開かないと開催している事業に参加することができない。参加していないというカウントになるものだから、そこで登録者数と参加者数との乖離が出てくるというような状況である。この点についても周知を図ってはいるのだが、つついアプリを開かずに終わってしまう方がいるのかなということで、昨年からスポーツ推進委員会の総会だとか、スポーツ少年団本部だとか、スポーツ振興会など、各団体に対して様々なイベントで二次元コードを読み込んで参加していただくような取り組みをしているところである。

○委員

東北公益文科大学の鬼ごっこ事業について、大学生と子ども達の関りというのは、私はすごく素晴らしいなと思っていて、ただ私も女子バレーボール部とやり取りや関係があり、公立化により推薦枠が減ってしまうというのは聞いていて、今だともう1年生は1人しかいないと聞いている。すごく良い事業だと思うが継続が難しいのかなと思っていて、今後、大学とやるというのが大事なのか、それとも子供たちのスポーツ、体を動かすという機会が大事なのか。だったら大学とは難しいのかなとか、先ほど「大学と協議して」という話もあったので、子ども達のこういう機会はできるだけ残したまま、どことやるかというのを、もう3年の話になるのかなと思うので、調整を早めにしていただきたい。

⇒事務局

この件については昨年から公立化ということで話が出ている。いま強化指定部というところでは、野球、サッカー、バレーボールの3競技で、公立化によることで推薦入学がされない。ただ、部はそのまま存続されるということで、共創センターのほうに連絡をしたうえで、結果的には各部の監督と調整をしてきたところである。これについては、強化指定部に特化せずに、公益大生の地元定着だとか、地元の事業への関りだとか、そういった部分から、何かしらの運動部に入っている学生のボランティア的な部分で関わってもらえないかという話を、公益大と調整したうえで、来年度に向けて早めに調整できればと思っている。

○委員

数値目標のところの小学生のスポーツ実施率、現状値48%というところであるが、これはスポーツ少年団、それから酒田市の空手とか、そういうものに入っている子の人数ということでよろしいか。それとも違う測定値なのか、教えていただきたい。

⇒事務局

これについては文部科学省でとっているアンケート調査、その酒田市分を抽出してここに記載しているものである。

⇒委員

48%と非常に低い数値で、60%にちょっと遠いなと思いながら見させていただいた。

⇒事務局

スポーツ少年団の実際の加入率というのは、子どもの数が減ってきている中ではあるのだが、30%前後でこれはあまり変わっていない。それ以外のスポーツをしている子どもた

ちが十数パーセントになる。

○委員

先ほどの東北公益文科大学との連携について、大学生が特にスポーツに関わらなくても、公益大生であれば、小学生との交流・連携はあってもいいのではないかと思いますので、推薦入試の関係で体育会系が減ったとしても、体育会系でなくとも子ども達と触れ合う鬼ごっこをしながらということは双方にメリットがあることかなと思うので、積極的に進めてほしいと思う。

＜基本目標 2 感動と活力に満ちた競技スポーツの推進【資料 2-2】＞

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

○委員

色々な講演会があって、参加してもらうために周知方法も含め内容・方策を検討とあるが、その中で、今回の講演会で何か動画配信とか、あとで配信とか、ハイブリッド形式とか、そのようなことをやったのか。行きたいんだけどどうしても行けなかったり、例えばデフリンピック選手の講演なんかは、同じ障害がある立場で聞きたいとなったときに、なかなかその場に行けないとか、そういう場合の配信があったのかお聞きしたい。

⇒事務局

配信はしていない。

⇒委員

今後そういったことを考えているか。いまそういうのが増えてきていて、予算の関係などもあると思うが。

⇒事務局

講演する方との調整もあると思うが、内部で検討したいと思う。

○委員

今回スポーツ少年団のほうで、婦人科の先生を講師で呼びした。スポーツ少年団は丁度女の子の生理が始まる時期なものだから、ほかの方からアドバイスをいただいて、親でも教えられない、分からない部分があるということで、踏み込んだ形の講演会を企画した。表立ってそれを強調するのもちょっと、ということで、匂わせるような形は取ったのだが、それで逆に周知徹底ができなかったところもあった。ただ、時期的なものもあり、広報誌とかホームページで周知できればよかったのだが間に合わなかったという事情もある。終わってから色々な人に話すと「私も聞きたかった」という声が聞こえてきたので、今年もう一回やろうかなとも考えている。それは内部の、これからの相談なのだが、そのときはもう早めに「女の子の体、あなた分かりますか？」と踏み込んで周知しようかと考えている。非常に良い内容であったのだが、その辺で申し訳ないというか、タブーに踏み込むような形でやりにくかった。その際は皆様方に、周知徹底のためのチラシとか案内を出したいと思っている。

⇒委員

私も元アスリートというところで、婦人系というのは、言いにくいというのは小学生もあると思うので、オープンにさせていただいたらすごく嬉しいし、言いやすいというのはあるのかなと思う。ただ、もちろん「なかなか」というところはあると思うので、周知する人を女性にしたりするのであれば、やりやすくなったりはするのかなとは思っている。ただそういうのは、女性アスリートにとっては、小学生のうちからというのは、すごく嬉しいことだなと思

った。

⇒委員

その辺は、男性の指導者もある程度知っておかないと、という形の中での講演だったのだが、なかなか、先ほど申し上げた通り申し訳なかったと思うし、今後の課題としてやりたいと思っている。

○委員

現状評価の中で、国民スポーツ大会への出場種目数、それがある程度の尺度になっているが、疑問に思うのは、ジュニアの選手が市外・県外へ流出するのを防ぐという記述。分かるのだが、ちっちゃいのかなと思う。やっぱり強くなるためには、強いところにどんどん出掛けるとか、遠征するとかというイメージがあると思う。だから、ジュニアの選手が市外・県外へ流出するのを防ぐ必要があるということよりも、全国で活躍、または世界で活躍するアスリートを目指すんだという、そういう一段ランクを上げたようなイメージで目標を掲げていくと。国スポに出ることが競技力の向上には繋がらない。評価する面では非常に大切だとは思いますが、酒田市としても、どんどん酒田市出身の選手が世界で活躍する、オリンピックに出るというように、そういう高い目標に修正をかけていく必要があるのではないかな。あくまで国スポも、今度通年開催で非常にばらつきが出てくるんだと思う。そんな風に考えると、流出を防ぐというよりも、バレーボールが強くなったのはイタリアにどんどん出ていくようになった。サッカーもそうである。結局、海外に行くことによってレベルが上がって、それであれだけ世界で戦えるようなチームになっているわけであるから、あまり拘らないで、どんどん強いところに行きなさいと。もしくは、酒田の高体連が、他から引き抜かれないようにもっと頑張れと。酒田南高校の女子バスケットはいま頑張っており、今回もインターハイに行くようである。スポーツ協会としても生涯スポーツと競技スポーツを両方考えているが、酒田出身の選手が世界で活躍できる、そういう大きな夢、目標を立てたいと思う。これはあくまで意見である。

＜基本目標 3 スポーツによる賑わいとまちづくりの推進【資料 2-3】＞

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

○委員

つや姫マラソンに2キロの部ができたことは本当にありがたい。アンケートでも30代女性のスポーツ実施率が一番低いとあったが、うちの園でも登録した先生、保護者の方がいて、それに向けて練習を始めるということは、またそれをきっかけに運動をするきっかけができたということでもあるし、とても良い効果だなと思う。

○委員

おしんレースはやるのか。

⇒事務局

おしんレースについては、やるやらないと言うよりも、トライアスロン協会はどうされるかということである。

⇒委員

数値目標におしんレースも入っている。

⇒事務局

スポーツ推進計画の昨年度までの目標が入っているためであり、令和8年度からはその

目標はなくなる。

○委員

スポーツフェスティバルは去年より少なかった。希望ホールで氣志團のライブがあったというし、空港でも親子のイベントがあった。公益大の公翔祭もあった。つや姫マラソンについては、生涯学習まつりが1週間ずれるので、文化センターに行く人からの苦情は無くなると思う。

＜基本目標 4 安全安心なスポーツ活動のための環境整備【資料 2-4】＞

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

○委員

熱中症対策のところで、「数値が高い場合に声掛けを行い、安全な施設利用に努めた」とあるが、どのような形で行っているのか。

⇒事務局

各体育施設のほうにWBGT計（指数計）を設置しており、各施設の管理人が、朝9時と昼12時で数値を確認することになっている。環境省のほうで熱中症指数というものを設定しており、熱中症指数でいうと28以上、気温でいうと30度超えというのが厳重警戒というものにあたる。それを目安に、暑い日には利用者の皆さんに管理人から声掛けを行い注意喚起をしているし、また、厳重警戒の値になっている日で、利用者の皆さんから「暑いので今日は利用を中止します」と申し出があった場合にはキャンセル料をいただかないということに対応をしている。

⇒委員

私も体育館を使ってバレーボールの指導をやらせてもらっているが、どうしても「暑い」という日があって、その中で水分補給を多めにしたり、休憩をこまめにとったりというのは行っていて、その中で「強化をする」ということになる、どうしても強度の高いような練習をする際に、こまめに水分補給を取りすぎるとなかなか集中力が持たないというのが正直あって、もちろんしょうがないことではあるのだが、理想はエアコンが付いた施設であるが、なかなかそうもいかないと思うので、例えばレンタルできるような大きい扇風機であったりとか、そういうのが各体育施設にあったら、ある程度は安心してできたりはするのかなと思う。それがあれば、強度の強めな練習もできたりすると思う。あとは熱中症対策のところで、やっぱり命にかかわることかと思うので、可能であれば先ほどあった講演だとか、そういうところに絡ませて指導者の育成も含めてやっていただけたら、より安心安全に繋がるのかなと思った。

＜基本目標 1 から基本目標 4 まで通して＞

【質疑応答】

○委員

いま話題になっている中学校部活動の地域展開について、どこかの項目、たぶん基本目標1に入るのかなと思うが、令和8年度以降の中に、何らかの形で載せる必要があるのではな

い。運動だけではなく文化も入るわけだが、中学生の部活動についての文言が無いというのはどうなのか。検討の余地があるのではないかと思う。

⇒事務局

部活動については、酒田市の場合、学校教育課が中心となり進めている。当然、文化政策課、スポーツ振興課も別の立場で話はしている。一番は、酒田市のスポーツ振興を進めていくうえで、多世代の部分を担当する部分と考えており、中学生の3年間の部分に特化する必要性は無いのかなと。ただ、部活動の現状で、土日は先生方が関わらない部分をやるうえでは、部活動という文言から外れた、部活動に入っていない子のスポーツ振興という部分については、当然入ってくるのかなと考えている。最終的には、遅かれ早かれ、部活動が無くなる方向にあるんだろうと考えており、今年から6年間の改革実行期間中では、部活動は学校教育の一環だというような文言になっており、簡単にはなくならないんだろうと思っている。中学生も含めたスポーツ振興という部分では、当然中身に入ってくると思うので、その書きぶりだとか、支援の仕方が、スポーツ振興課としてどういう関りがあるのかということでは少し検討をさせていただきたい。

○委員

今の件で、総合型地域スポーツクラブの面から申し上げると、多世代というところで中学生も入ってくるのだが、中学生が会員になっているクラブがあって、クラブに入っていればよいのだが、運動に向かない子、運動をしない子、そこをどう取り込むかということを考え始めており、酒田市の総合型クラブ全体として、1クラブ廃止になったクラブもあり、スポーツを提供する場がちょっと少なくなっている面もある。その面に関しても、市スポーツ振興課とか、あとは総合型クラブの情報交換会というものもあり、どのようにしていくか話し合いをしたいと思っている。

○委員

中学校部活動地域展開については、各関係団体・関係者から色々と尽力をいただいている。土日の部活動地域展開は、まず進んでいるということで感謝を申し上げる。いま委員が言われたのは、結局中学生を含めたスポーツ環境をどうやって整備していくかという大きなところかなと思っていて、それについては、いま例えば部活動の補完型クラブを新たに立ち上げたところだとか、あとはスポーツ協会傘下の団体にお世話になっているとか、あとは総合型地域スポーツクラブの傘下としてお世話になっているとか、いろいろな面で中学生を土日指導していただいている。その中学生の環境整備がまだ道半ばというか、はっきりしていないところがあって、そこを大きく捉えてどうやっていくかというところが今後の検討課題かなと思っている。その点で、令和8年度になるのか、今後の展開になるのか、そこを考えていかないといけない。

4. その他（進行：事務局）

（1）令和7年度スポーツ振興課所管施設の利用状況【資料3】

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】なし

（2）令和7年度「酒田市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査」の概要【資料4】

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

○委員

このアンケート調査は全国でも実施しているものと思うが、全国の調査と本市はほぼ似

通ったものとか、または本市ではこんな特徴的なものがあるとか、そういったものは何かあるか。

⇒事務局

全国調査はやっていると思うが、比較はしていない。独自の部分でいうと、共生社会の実現の部分は、全国ではやってなかったと思う。昨年から、デフリンピックの関係がどのくらいの認知度があるかという調査は独自にやっている。今年度も、今週13日からデフリンピック選手が小学校6校に出向いて、手挙げ方式ではあるが講演会や水泳指導をしている。事業として予算を付けているわけではないが、スポーツ振興課を通して小学校のほうに働きかけをしている。以前はアンケートの集計方法について、ランダムに1千人ほどの市民に対してアンケート調査をしていたが、現在はオンラインで回答してもらうという形をとっており、回答数が増えたということで、傾向などは以前より見れるようになった。あと、先ほど委員のほうから話があった小学生のスポーツ実施率47.7%であるが、これは一日あたり1時間、週420分以上スポーツをしているかというところで調査をしているところで、先ほど言い忘れた部分である。

○委員

スポーツ推進計画の36ページ以降の部分で、全国があつて山形県があつて市区町村とあるが、これは酒田市のことを言っているのか。

⇒事務局

回答数が600余りで、先ほどの運動実施率もそうであるが酒田市の部分を抽出しているので、これは酒田市の数値である。

○委員

同じくスポーツ推進計画の18ページに、国民スポーツ大会の「競技数」となっているが、種目数に変わったのではないのか。

⇒事務局

前計画では「種目」数としていたが、国民スポーツ大会の基本的な単位は「競技」となっているため、計画改訂後は「競技」数と表記したものである。

○委員

アンケートから、私自身もいま30代で女性でというところで、一番スポーツ実施ができていない年代にあたるころなのだが、どうしたら増えるのかなと考えている中で、例えば自分でやるというのは中々仕事、家事が忙しい。子供に手が掛かるというのはすごく体力が持っていけるのでやっぱり難しいかなと思っていて、それ以外というところで、例えば、すごく大変だとは思いますが、PTAや学校でとか、子供と一緒に巻き込みながらというのであれば、ちょっと勇気を出してやってみようかなという人がいると思う。私自身もちょっと地元がこっちではないので、なかなか知り合いも少なく、子供ができて、いわゆるママ友ができるのが楽しみという部分もあるので、そういったものを保育園、幼稚園、学校のほうでやっていただいたら、ちょっと運動しようかなとか、それがママ友づくりのきっかけになればいいのかなと思う。その中で、大人になってスポーツをする。ましてや仕事、家事が忙しい。子供に手が掛かるとか、アンケート通りだとすごく思うのだが、そこでスポーツしようというのはなかなか一歩が出なくて、そこでやっている人というのは小さい頃からスポーツをやっている人が多いかなと思うので、いま数値を伸ばしていくのも必要かとは思いますが、いまの子ども達が大人になってからスポーツを続けてもらうためには、いま子供たちに色々なスポーツをたくさん経験してもらうことが、今後この数値が良くなることにも

繋がってくるのかなと思った。

○委員

酒田市スポーツ推進計画の13ページに、以前もお聞きしたのだが、「もっと遊べ酒田の子ども」の運動テキストなどを使いながら～運動遊びの場の充実を図ります」とある。以前、十何年も前にそういうことをしていたけど、いまはその計画は無いと前回お聞きしたが、私達は全く丸投げするつもりはなく、あのときもエビデンスに基づいたプログラムの中で、子供達がいかに体を動かせるかというところで、いまでもうちの園では三十六動作を教えていただいたり、そういうものを活用して、幼稚園時代は子供は体を動かすのが当たり前と思っているけど、小学校に行くと肥満の問題があったり、小学生が一番運動していないという時間があったり、中学生でも部活動の地域移行によって、そこに運動をしない子供達がこれから予想されるというときに、じゃあ幼稚園で何ができるかとなったときに、こういう「もっと遊べ酒田の子ども」とか、本当に酒田市に動いていただいてありがたかったと思うのだが、例えば東北公益文科大学で鬼ごっこをやったテキストとか、その内容をちょっと見せていただけないかと以前もお話したのだが、この「もっと遊べ酒田の子ども」という以前に作ったプログラムを、もしも、また色々な保育園とかに配ることができれば、うちはそのを使っている色々やっているけど、またリセットして、そういうものを使っていない園があるのであれば、せっかくこうして作っていただいたものがあるので、それをまた新たに改訂というのは大変時間がかかるし、多岐に渡るこんなすごい量の中で、またお願いするのは申し訳ないなと思いながら、幼稚園・保育園の役割という重要性を、運動・体を使うということに関してはすごくひしひしと感ずるので、私も市内の私立幼稚園連合会の中では、色々そういうことをお伝えして、活用している園もあるし、でも市内には保育園のほうが多いので、せっかく酒田市がやってきたこういうものをもう少し広げる手立てはないのかなと思ったりすると、せめてこのテキストを新たに配っていただくことでもよい。でもいま誌面はデジタル化なので、デジタルでもいいのだが、何かしらここに載っている以上、過去の取り組みではなくて、これからも充実を図っていくという文言があるのであれば、そういうこともお願いしたいなと。今すぐではなくてもいいのだが、何かしらそこに私達もお手伝いできるのであればもちろん動きますが、そういうこともお願いしたいと思った。

⇒事務局

平成18年～19年頃、20年前のお話しだと思う。これまで、色々な団体の方だとか県外の大学の先生だとか、民間も含め色々、全国の状況などもお話しいただいた。いま、委員から話があったが、一つ皆さんにお伝えしたいのは、行政の役割がどこなのかというところである。当時も、テキストを作って、きっかけを作った。結果、民間の方から、「小学校であれば校長先生、幼稚園であれば園長先生のやる気次第だ」というような話を言われた。結局、担当の先生にやる気があっても、トップにやる気がないと、これは絶対に広がらないというような話をいただいた。以前に、東京都港区の「みなと保育園」の活動内容のお話しを聞いたり、宮城県白石市の「ひかり幼稚園」の見学など、当時、公益大の教授や市内幼稚園保育園の先生方と一緒に見させていただいた。どこに行ってもやっぱり、最終的にはトップの方がやるかやらないかという所に落ち着く中で、結局校長先生も、園長先生も、担当の先生も変わってしまう。テキストは各園にお渡ししているので、あるはずである。平成26年に、私がまちづくり推進課から移ってきたときに、7園の幼稚園の先生が当時の文化スポーツ振興課に訪れて、「復活させたいので講演していただけないか」と話があり、私がそれなりの講演をさせていただいたのだが、そのときに来た先生達は皆園長になった先生達であった。当時は担当の先生だったのが園長になって、自分がこうしたいと。いま委員も園長の立場でお話しをいただいて、それが、ほかの幼稚園・保育園にも伝わればよいが、結局そ

れが、やる気と言ったら大変失礼なのだが、その部分に繋がってくると。当時の教育長もそうだし、教育部長もそうだし、やはり幼児教育からやっていかないと、酒田市の、大人になってから運動するしないに繋がってくる。それから、最近の暑さ対策。先ほど委員のほうからもあったが、皆さんエアコンがあれば運動しやすいと思うのかもしれないが、人間の耐性の力というのは、暑さ対策でエアコンではなくて、暑い中でやらないから結局耐性ができない。そういう環境に慣れることも、運動の一つだというような話もある方から言われた。暑さも昔と比べてかなり暑い中だとは思いますが、徐々にそうやって体を慣らしていく。赤道直下に住んでいる方もいるわけなので、人間の体というのはそんな弱いものではないというようなことも含めて、委員の皆さんと市のスポーツ振興に向けて、何かしら好影響になるような取り組みができればと思うので、ぜひそれぞれのお立場でお考えいただいて、全体の取り組み、各世代の取り組みがあると思うので、ぜひそういったご意見を頂戴できればと思うのでよろしくお願いをしたい。

○委員

委員のほうに。アクティブチャイルドについてはインターネットで検索すると、色々なやり方が全部出てくるはず。スポーツ少年団の庄内地区協議会のほうで、9月12日の昼から、三川町のテオトルという子育て支援施設のほうで研修会があるので、昼からなので一つか二つくらいしか体験できないと思うが、その研修会に参加していただけるとやり方を知ることができるのではないかと思います。まだ案内は出てないと思うので、スポーツ振興課にお問い合わせいただいて、多少人数制限があるかとは思いますが、参加してみたい。

⇒委員

それは、総合型地域スポーツクラブの指導員も参加できるものなのか。

⇒委員

申し込みしてあれば可能。J S P Oの研修会になっているので、指導者の更新講習の一つの単位になっているので、そちらのほうを優先されるとちょっと入れなくなる可能性はあるのかなと。会場が会場なので、人数制限があるかもしれないが、もし興味があれば申し込んでいただきたい。

○委員

スポーツの振興についてのアンケートのところをみて思ったところなのだが、うちには高校生の息子がいて、去年までは中学生で、各小学校とか中学校とか、高校までできるのかは分からないのだが、スポ少とか部活動以外に、個人でやっているスポーツクラブが一杯あると思う。うちは体操競技をしていて体操クラブに10年くらいいたのだが、そういう、皆さんが意外と知らない小さいクラブでも色々な競技があると思う。そういうチラシ、パンフレットとかをロビーに置くとか、学校のほうに掲示したりすると、息子との会話の中であったのだが、私達が学生の頃は絶対に部活動に入らなければいけないという時代があったと思うが、今って、そうなのかどうかは分からないのだが、部活動を辞めても、その後卒業までどこの部活動にも入らずに、いわゆる帰宅部みたいな形なってる生徒が多いみたいで、うちの子からも「部活動を辞めて何もしてない子がいる」「家に帰ってゲームをしている」と、そういうこととかも無くはなかったものですから、例えばバスケットをやっていたんだけど環境が合わないとかチームメイトとの人間関係とかで、その競技は好きなんだけれどもちょっと難しかった子の次の居場所になるのかなと思うと、そういう工夫とかも一つ、考えてみていいのかなと思った。

⇒事務局

今のお話で、色々と行政でできる部分と、場所によってはスポーツ協会がそういう全体の

取りまとめをしているところもあるものだから、その辺はスポーツ協会の事務局長だとか、スポーツ全般に渡る部分については、こういった形をとるかというところを少し相談させていただければと思う。

あと参考であるが、コロナ禍のときに天理大学の川上先生という方から色々ご協力をいただいて、市のホームページにも「室内でエクササイズ」という動画をアップしている。これはずっとまだ生きていると思うので、モーニングエクササイズだとか、ウォーミングアップエクササイズ、スタミナエクササイズ、筋トレエクササイズ、短時間で出来る初級編、中級編だとか、色々市のホームページに載せているところであるので、委員の皆様からご覧いただければありがたいと思う。

(3) その他

○委員

9月6日にドリームチームが市野球場に来る。午後からその打合せ会議が入っており、それが終わり次第、色々な形で公表できると思うが、皆様方からもお手伝いとか、様々お願いしなければならない部分もあるのだが、整理券を1万枚発行してどのくらい入るのか。ぜひ整理券を入手して、9月6日に来ていただければと思っている。整理券を8月3日から配布するので、よろしくをお願いをしたい。

5. 閉 会（事務局）

以 上